



「帝國國策遂行要領」ニ關スル御前會議

一 期 日

昭和十六年九月六日 自午前十時至同十二時

二 出席者

近衛內閣總理大臣

豐田外務大臣

田邊內務大臣

小倉大藏大臣

東條陸軍大臣

及川海軍大臣

杉山參謀總長

永野軍令部總長

塚田參謀次長

陸
軍

227

0459

伊藤軍令部次長

原樞密院議長

富田内閣書記官長

武藤陸軍軍務局長

岡海軍軍務局長

企劃院總裁

三、午前十時開會約一時間ニ亙リ首相、外相、企畫院總裁、陸海兩總

長ノ御説明アリタル後、主トシテ原樞府議院ノ間ニ質疑應答アリ

テ正午閉會ス

四、總理企畫院總裁陸海兩總長ノ御説明ハ別紙ノ如シ

五、外相説明要旨

外相ハ先ツ松岡外相時代ヨリ今日ニ至ルN工作ノ經過ヲ述ヘ、次
テ「國策遂行要領」別紙ノ「外交ニ依リ貫徹スヘキ帝國ノ對英米

最後並ニ之ニ關聯シ帝國ノ約諾シ得ル限度」ニ就キ之ヲ朗讀シツ
ツ若干ノ註釋ヲ加ヘタリ

註釋ノ概要左ノ如シ

第一ノ一ノ註「日支間新取極ニ依ル軍隊駐屯」ニ就キテハ、帝國
軍隊ノ駐屯ハ日支間ニ今後新シク出來ル取極ニ依ルモノデアリマ
スルカ、此ノ帝國軍隊ノ駐屯ハN工作ニ於テ既テ米側ニ示シテア
ルアノ主義ヲ變更シナイモノデアリマス（本説明ハ特ニ重視ノ要
アリ）

同註ノ「支那ニ於ケル英米ノ經濟活動……」ニ關シテハ、N工作
ニ於テ未タ意見ノ一致ヲ見テ居ラナイモノデアリマス
二ノ(4)軍事的權益設定ニ關シテハ、唯今ノ所テハ泰、蘭印、支那

極東「ソ」領共ニ之カアルト云フ確報ハアリマセン唯蘭印ニハ海
運基地ヲ取ツタト云フ噂カアル程度デアリマス

二ノ(四)ノ註ノ佛印トノ特殊關係トハ、共同防衛、松岡「アンリー」
協定、經濟協定等デアリマス。之ヲ解消スルハ困リマス。之レハ
米ノ通商自由ト食ヒ違ヒカアリマスカ、日本ノ特殊地位ニ鑑ミ之
ヲ解消スルコトハ出來ヌノデアリマス

第二ノ一ハ既ニ米側ニ示シアル事項デアリマス

第二ノ一ノ註ハ一應米側ニ内示シデアリマス

第二ノ三三ハ一應米側ニ内示シデアリマス

次ニ米參戰ノ場合ノ解釋デアリマスカ、前段ノ方ハ歐洲戰爭ニ對
スル日本ノ態度ハ積極的參戰防止ノ主義ニテ防護自衛ニ依ルコト

ヲ明カニシテアリマス。米參戰ノ場合ノ我態度ハ、今迄我ハ直ク
參戰スル様米ニ説明シテ居リマシタカ、之テハアマリ解釋カ窮屈
テアリマス。三國條約第三條ニハ攻撃ヲ受ケタ場合トアリ、又秘
密交換公文ノ中ニハ攻撃セラレタルヤ否ヤハ三國間ノ協議ニ依リ
決定セラルヘキコト、又條約第四條ノ専門委員會ノ此ノ決定ハ夫
々關係國政府ノ承認ヲ經テ實施スルコトニナツテ居リマスル等、
之等ノ事ヲ綜合スレハ之迄ノ様ニ窮屈ニ解釋スル必要ハナイト思
ヒマス。又軍事的ノコトハ自主的ニヤリマスカラ此ノ作文ノ様ニ
書イタワケテアリマス

六 質疑應答ノ概要

原樞府議長

0463

質問竝意見ヲ述ヘマス

總理竝兩總長其他ノ方ノ説明ニ依リ本案大體ノ趣旨ハ諒承セリ
外相ノ説明ニ依ルト日米關係カカク迄緊迫セリト云フカ、尋常
一樣月並ノ外交テハヤレヌ。出來ルタケノ手段ヲ取ツテ難局ヲ
打開スヘシ

總理カ「ルーズベルト」ト會見シテ意見ヲ一致セシメントスル
決意、其ノ國家ニ對スル忠誠心ト熱意トニ對シ感謝ス（極力總
理ノ訪米ヲ支援スルノ態度見ユ）

國民ハ日米關係ヲ眺メ最惡ノ場合ニ至ラスヤト思ヒ、之ニ至ラ
サルヲ願ツテ居ル。自分ハ此ノ前ノ會議ノ時ニ對英米戰ヲ辭セ
ストアリシカ故ニ出來ルダケ外交ヲヤルヨウ希望シ置ケリ。現

在政府ノ考ヘモ其ノ様テアリ、兩總長ノ考ヘモ同シ様ダ。而シ外交的手段駄目トナレハ好ムト好マサルトニ拘ラス最悪ノ場合戦争トナルダラウ。而シテ之ハ適當ナ時ニ決意スルヲ要スル。ソコテ戦争準備ヲヤルノテアルト諒解スル

次ニ案文中ノ一三三ヲ一瞥通覽スルト、自存自衛ノ爲ニ戦争準備ト外交トヲ併行シ、又開戦ノ決意等ノコトカアル。戦争開始モ已ムヲ得ナイカ、出來ルナラハ外交ニ依ツテヤツテ見様ト見ラレル節モアル、即戦争カ主テ外交カ從テアルカノ如ク見エルカ、自分ハ外交手段ヲ取ツテ居ル間ヅツト今日カラ戦争準備ヲスルト云フ趣旨テアルト思フ。即チ今日ハ何處迄モ外交的打開ニ勉メ、ソレテ行カヌ時ハ戦争ヲヤラナケレハナラストノ意ト

思フ。戦争カ主テ外交カ從ト見エルカ、外交ニ努力ヲシテ万已ムヲ得ナイ時ニ戦争ヲスルモノト解釋ヲスル

及川海相

書イタ氣持ト原議長ト同一テアリマス

帝國政府トシテハ事實ニ於テ日米國交ハ今日迄勉メテ居ル所デアル。現在ノ事態ニ直面シ已ムナキ時ハ辭セサル決意ヲ以テヤルト云フコトヲ取リアケテ書イタノテアル

第一項ノ戦争準備ト第二項ノ外交トハ輕重ナシ。而シテ第三項ノ目途ナキ場合ニハ戦争ノ決意迄行フト云フノテアル。而シ之ヲ決意スルノハ廟議テ允裁ヲ戴クコトトナル。重ネテ云ヘハ書キ表ハシタ趣旨ハ原議長ト同様ニテ出來得ル限り外交交渉ヲヤ

原樞府議長

ル。又近衛首相カ訪米ヲモ決意シタノハ左様ナ觀點デアルト思フ
御話ニ依リ本案ノ趣旨ハ明カトナレリ

本案ハ政府統帥部ノ連絡會議テ定マリシ事故、統帥部モ海軍大臣ノ答ト同シト信シテ自分ハ安心致シマシタ。尙近衛首相カ訪米ノ際ニハ主旨トシテ戦争準備ヲヤツテオクカ、出來ルタケ外交ヲヤルト云フ考ヘテ、何ントカシテ外交ニ依リ國交調整ヲヤルト云フ氣持カ必要テアル。ドウカ本案ノ御裁定ニナツタラ首相ノ訪米使命ニ適スル様ニ、且日米最惡ノ事態ヲ免ルル様御協力ヲ願フ
日米戦争ニ伴フ米「ソ」ノ關係ニ就キ承リ度

右質疑ニ對シテハ參謀總長ヨリ、極東「ソ」軍ノ情況、「ソ」ノ對日態度、我軍ノ狀況、米ノ軍事的經濟的對「ソ」援助ノ事實及將來アリ得ヘキ事項竝ニ南方作戰トノ關聯ニ就キ逐一詳細ナル説明アリ

原樞府議長

「ソ」聯トノ關係ハ統帥部ノ御話ニ依リシツカリ承リマシタ
戦争決意ニ就キマシテハ慎重審議セラレルト云フ事テスカ、首相ノ努力カ遂ニ行ハレナカツタ時ニハ愈々戦争ト云フ最悪ノ場合トナル、ソウナルト統帥部ノ云フ様ニ戦争決意ヲセサルヘカラス。此ノ戦争決意ハ慎重ニ審議スルト云フカラ之以上質問ヲセス

別紙ノ條件テ外交交渉カ出來レハ結構ト存シ、本案ニ對シテハ
滿腔ノ讚意ヲ表ス

更ニ最後ニ一言ス

支那事變擴大後一億一心ト云フカ事實ハ違フ。現ニ日米國交調
整ニモ一部反對ノ態度ヲ取ツテ居ル者カアル。愛國民カモ知レ
ヌカ國內テ政府カヤルコトニ反對スル者カアルコトハ頗ル心配
カ多イ。特ニ眞ニ國家ノ運命ヲ堵スル時ニ直接行動ヲ取ルカ如
キコトハ憂フヘキコトナリ。敵ノ第五列カ居ル様ナコトハ頗ル
遺憾ナリ。此ノ如キコトハ國カ内カラ亡ビ、ソレカ愛國心テア
ツテモ利敵行爲トナル。此ノ様ナ「テロ」行爲カ續行スルナラ
ハ廟議テ如何ニ決シテモ實行ハ疑問ナリ。日露戰爭ニハ眞ニ國

民ハ一ツ心ナリシモ、戦争終リノ頃小村外相ハ危イ様ナ事カリ、又焼打事件ナトモアツタ。今ハ戦争中ニモ拘ラス「テロ」行爲カアル。廟議ノ決定カ實行出來ルカドウカ疑ハレル。最悪ノ場合ニモ廟議カ斷行出來ル勇斷徹底的ニ處置ヲ取ラレ度右ニ對シ内相ハ甚タ遺憾ナリ團體個人ノ調査ヲナシイザト云フ時ニハ必要ナル處置ヲ取ル旨ヲ縷々説明ヲナセリ
以上ヲ以テ可決トナレリ
最後ニ特ニ
陛下ヨリ御言葉アリ（陛下問綴ニ譲ル）